

「家がいいね」 第104号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2013. 1. 4

きつぱりと冬が来た

高村光太郎の「冬が来た」という有名な詩は、この言葉で始まります。元旦の朝は冷え込みましたね。年末に雨も降り、その名残の田んぼには氷も張っていました。年の初めの切り替えには、きつぱりとした寒さも必要かもしれません。



今年には遷宮の年。お白石を手に、8月上旬には内宮へ、下旬には外宮へ納める奉獻行事があります。夏の伊勢の街はひとときわ熱くなるでしょう。

遷宮を機に整備された南北幹線道路は、私の自宅近くに走っています。高架を見上げると、外宮につながる山々が意外に近くに見えます。なだらかな山容は、女性的な曲線です。古き時代も景色は同じ、とすると眺めて心がホッとす

るのも、そのせいでしょうか。横浜ゴムの工場の間を高架橋が通り、両側の歩道はちょうど良い散策道です。南に向かって登ってゆくと、両側に町並みが幅広く見えます。道路が曲がってゆく先は、JR参宮線を越える橋になります。

ここで北を振り返ってみると、かなり遠方までの眺望に驚かれるかもしれません。空全体が広いなあと感じます。正月の空に巻層雲がペールをかけようとしています。人の世はせわしいばかりですが、自然と共に生きることを考えつつ過ごしたいと思います。



本年もどうぞよろしく
お願ひします。

今年の干支のお話

蛇は脱皮し成長することから、強い生命力を持つ再生の例として干支にあげられています。



また神話には、図のように自らの尾を啜る蛇がおり、これはウロボロスと呼ばれます。強い生命の蛇が、環となることで完全の象徴とされました。さて紙面の蛇、この全長は？



持続可能なのは、利他の社会！

私たちのこの社会の儚(はかな)さや脆(もろ)さは、あの震災を契機に、いっぺんに化けの皮をはがされました。豊かを装う「安全」は確認なしで先送りされ、原発人災となつて戻ってきました。暮れの選挙で「取り戻す」という言葉が響き、権力を取り戻した人たちは、全権委任されたように、かつての失敗を再度企てようとしています。取り戻すべきは誠実な経済です。働く人や家族を幸せにしない会社の雇用システムはおかしい。次世代の手から希望を取り上げて恥じない。少子化はその結果です。でも社会貢献をし社員・家族や仕入れ先・顧客を大切に「正しい小企業」もあると知りました(坂本光司さん調査)。現世代が自らの取り分を、身近な社会(目に見える人)のために差し出す行為がこれから必要に思えます。前号で少し触れた、民家を借り上げて、最期まで共同生活する家(ホームホスピス母さんの家)は、多死社会の後に来る人口急減社会の中では、頼れる家になります。現在急増する高齢者住宅は、今でも絆が無く必ず過疎になるでしょう。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

